

## 海外安全対策情報 (2022年4月～6月)

### はじめに

現在外務省は、ロシアとウクライナとの国境周辺地帯にレベル4（退避勧告）、それ以外のロシア国内全域にレベル3（渡航中止勧告）の危険情報を発出しています。

今のところ、ウクライナ情勢を受けての当地における治安情勢の悪化は認められませんが、これに伴う対露制裁等により、対日感情悪化の可能性は排除されません。

また、ロシア国外で発行されたクレジットカードの利用停止、海外からの送金制限、現金の持込み制限等の経済制裁により、当地での生活に影響が出ております。また、航空便の運行も制限され、当地から日本との往来は第三国を経由せざるを得ないなどの困難が生じております。

今後の推移によっては、情勢の急激な変化も十分あり得ることから、危険情報には引き続きご注意ください。

### 1 社会・治安情勢

当地では本邦と比較し犯罪発生件数は全体的に高く、都市部に限らず各地において殺人、強盗、侵入窃盗、薬物など凶悪犯罪に関する報道が散見されます。

また、今次ウクライナ情勢を受けて、反戦又は軍事作戦支持のデモ・集会が開かれる可能性があります。もし、この様なデモ・集会を見かけた際には、決して近づくことはなく、速やかにその場を立ち去ってください。

旅行先や滞在地では目立つ服装や言動を避けるなど、その行動には十分注意していただくとともに、常に最新の現地情勢把握に努め、有事の際には速やかに管轄の在外公館までご相談、ご連絡ください。

### 2 一般犯罪の傾向

#### (1) 犯罪発生件数

政府の発表する犯罪統計によると、当館管轄地域における各地の犯罪登録件数は以下のとおりです。近年、犯罪件数は漸次減少傾向となっておりますが、本邦の人口規模の似ている都道府県の犯罪認知件数と比較するに依然として3～4倍の高い水準となっております。

### 管内各地における犯罪発生件数の推移

地 域	2021 年		2020 年	2019 年	2018 年
	件数	前年比	件数	件数	件数
ハバロフスク地方	21,987	-3.1%	22,695	23,940	22,509
ザバイカル地方	21,707	-4.4%	22,703	23,573	24,341
イルクーツク州	39,363	-6.7%	42,174	45,929	44,971
アムール州	18,231	-1.0%	18,422	19,508	17,536
ユダヤ自治州	3,323	-10.0%	3,693	3,555	3,663
サハ共和国	13,005	7.1%	12,146	11,287	11,939
ブリヤート共和国	20,770	0.6%	20,639	22,131	23,511

※ 赤字は前年と比較して増加を表す。

#### (2) 犯罪種別

犯罪の傾向としては、ひったくり、銃器や刃物等の凶器を使用した路上・屋内強盗や車上狙い、侵入窃盗が依然として多発しており、アパートの出入口付近に潜伏し、出入りする住人を襲う強盗事件も発生しています。

また友人、知人や親族間での犯罪も多く発生しており、飲酒中に些細なことから喧嘩となり、傷害事件や殺人事件に発展するケースも数多く見られます。

このほかにも、大麻や合成麻薬などの薬物犯罪も深刻です。

2021年における主な犯罪種別の発生件数を見ると、総数としては概ね減少傾向ですが、殺人・強姦等の凶悪犯罪事件が増加しています。

#### 2021年中の主な罪種別発生件数

地 域	殺人	強盗	ひったくり等	窃盗	強姦
ハバロフスク地方	159	52	351	8,347	54
ザバイカル地方	154	37	278	7,252	61
イルクーツク州	230	122	728	15,797	104
アムール州	110	42	342	7,071	28
ユダヤ自治州	27	12	59	1,114	8
サハ共和国	103	30	218	3,384	76
ブリヤート共和国	130	47	409	7,880	43

※ 赤字は前年と比較して増加を表す。

#### (4) 邦人にかかる被害事案

当該期間において、関連情報は報告されていません。近年の事例としては、以下の事案がありました。

- 2018年8月、邦人男性がシベリア鉄道車内で就寝中に財布を盗まれる被害に遭っています。この種の事案の発生防止のため、①就寝中でも貴重品

は肌身離さず身につける、②不特定多数の者が出入りする場所では、貴重品は必ず自分の目が届く場所に置いて管理をするよう心がけてください。

- 2019年4月、車両でロシア国内を旅行していた邦人が警察官2人組から速度違反を告げられて、その場で「罰金」と称して高額の現金を徴収される事案がありました。交通違反の現場において、直接警察官に対して現金を支払うことはあり得ませんので、そのような要求は詐欺でしかありません。（反則金の納付は銀行振り込みで行われます。）しつこく現金を要求される場合は、①警察官に身分証明書の提示を求め、ドライブレコーダーやスマートフォン等の録画機能で警察官の官職、氏名を記録するとともに会話や状況を記録して証拠保全に努める、②車両からは降車せずに対話に応じる、③その場で管轄する大使館若しくは総領事館に連絡を取り、現金を渡さないようにして下さい。
- 2019年7月、ハバロフスクを観光で訪れていた邦人女性が、バスから降車する際に後方にいた女性が不必要に身体を密着させてきたことから、不審に思い降車後に背負っていたリュックサックを確認したところ、チャックが開けられていて、現金、クレジットカード等が在中した財布を盗まれるスリ被害に遭いました。  
この種の事案の発生防止のため、①バッグのファスナーを確実に閉めるとともに混雑時にはバッグをお腹に抱えるように持つ、②必要以上に身体を密着してくる者がいる場合は離れる、③貴重品はひとつにまとめずに分けて携行することをお勧めします。
- 2019年9月、イルクーツク市内を観光していた邦人男性が見知らぬ若いロシア人の男から時間を尋ねられ、スマートフォンを取り出して、時間を確認しようとしたところ、突然手からスマートフォンをひったくられ、犯人は現場から走って逃走してしまいました。路上やバー等で話しかけてくる見知らぬ人物には十分注意してください。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

2020年7月、ハバロフスク市内でテロを計画していたとして中央アジア出身の男が逮捕されました。男は大勢の市民が集まる場所で爆弾テロを実行しよう、国際テロ組織から指示を受けていたとされています。

2021年10月、中東のテロ組織へ違法に送金をしていたとして、ハバロフスク地方を含む7つの地域で資金提供に関与していたとされる14人が逮捕されています。

同様の検挙事案は今年に入ってからほぼ毎月発生しており、いずれも中央アジア出身の外国人がハバロフスク地方だけで10人以上逮捕されています。

また、当館の管轄区域を含めロシア国内では、公共施設や社会インフラに対する爆破予告事件が多数発生しています。現在までのところ、当館管内において実際に爆発物が見つかった事例はありませんが、幼稚園、学校、銀行、スー

パー、ショッピングセンター、空港等を対象とした爆破予告が多数（2022年上半期で40件以上）報道されています。こうした情報に接した場合は、施設管理者や当局の指示に従い、速やかに安全な場所に避難してください。

**4 誘拐・脅迫事件発生状況**

誘拐事件などの発生は報告されていません。

**5 日本企業の安全に関わる諸問題**

日本企業に対する脅迫などの事例は報告されていません。